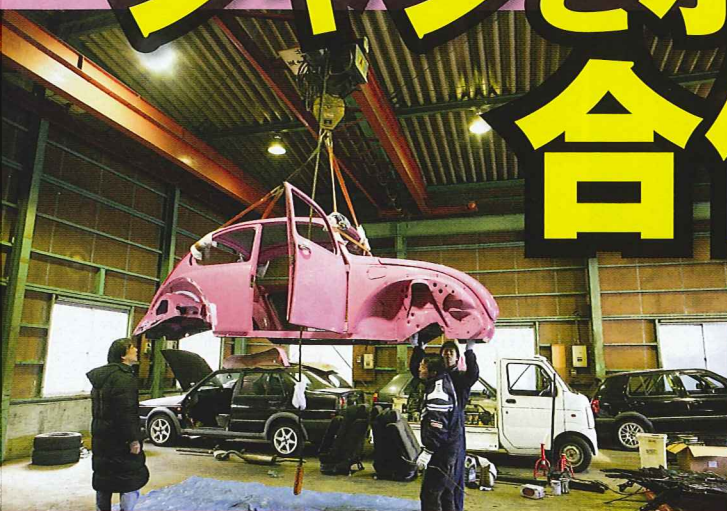


目指せ草レースの鬼!

ピンビー製作日記

F-ROAD SUPER-BEETLE PROJECT

シャシとボディ 合体す!



**2トンまでなら難なく持ち上げてしまうクレーンを使い
我々は手を添えるだけでボディとシャシがドッキング!**

BISの若いスタッフを除き、ピンビー取材チームの大半は腰に“爆弾”抱えています。さすがに寒い工場の中で重いボディを持つのはリスクが大きくなってきたので、今回は文明の利器に頼ることにしました。というわけで、久々にやってきたのがBISの第二倉庫。ここには天井に2トン以上のキャパシティのあるクレーンが装備されているので、ビートルのボディくらいだったら楽々吊り下げることができるのです。この写真のようにボディを水平の状態でするのは中々面倒な作業であるものの、今回はBSIの衛君が事前に用意しておいてくれました。クルマによっては、このようにボディにロープを掛けて持ち上げたら歪んでしまったりすることもあるのですが、ビートルの場合は特に問題が発生するようなことはありません。それにしても、やっぱり機械を使うと作業が楽で助かるな。

やっとここまで来ました。シャシとボディのドッキングです。
ロールケージを組み込んで、そしてボディを被せてネジ留め。
なんかクルマらしくなってきた。
ここからは一気呵成でいきいたいところだが、まだまだやること山積みなんだな。

文●半谷範一 撮影●森口信之
取材協力●ベストインポートサービス TEL:048-282-6119 <http://www.vw-bis.co.jp>
スピードジャパン TEL:03-3555-8865 <http://www.speedjapan.co.jp/>
日栄自動車商会 TEL:024-534-9680 <http://auto.jocar.jp/nichiei/>



今回でボディ関連の大きな作業はひと通り終了。ひとつ大きな山を越えたという感じがかな? しかし、このクルマを路上に復帰させるためには、まだまだやらなければならない作業が山積みです。暖かくなってきたら、作業のピッチも上げないとなりませんね。

そろそろ暖かくなってきたので作業のピッチも上げていきますか!
ピンビー、シャシ周りの作業も大分進んだんで、今回はいよいよボディと合体させることにしました。
このピンビーのボディ、最初にボディを下ろしたときも、前回ロールバーの位置決めをしたときにも、皆で持ち上げて作業を行ないました。でもねえ、さすがにBISのスタッフを除いては皆もう若くないですから、腰に負担がかかる作業は気が重いなあ。
というわけで、今回は作戦変更。BISの第二倉庫にあったクレーンを使ってボディを載せるという作戦に変更することになりました。そういえば、新車時の組み立てラインの記録映画を見ても、上からクレーンで吊ってボディを載せる作業をしてましたね。
残念ながらゲージがなかったたのでボディ単体の重さを計ることはできませんでしたが、このクレーン自体は2トン以上の物を持ち上げることができることになっているので、空冷ビートルだったら完成車を2台持ち上げるのだって楽勝です。
シャシとボディをうまく合体させるためには、ボディが水平の状態になっていた方が都合が良いのはいうまでもありません。今回はBISの衛くんが下準備をしておいてくれたので、この写真のようにきれいに水平の状態ですることができましたが、やはりかなり面倒な作業だったようです。
今回でボディ関連の大きな作業はひと通り終了。ひとつ大きな山を越えたという感じがかな? しかし、このクルマを路上に復帰させるためには、まだまだやらなければならない作業が山積みです。暖かくなってきたら、作業のピッチも上げないとなりませんね。

だから俺様は
カメラマンなの！



06



07



08

ボディ下回りの塗装

というわけで、作業変更。通常通り、ロールケージはボディを載せてから組み込むことにしました。⑥まずは気を取り直して、ボディ裏側の清掃。こういう状態だと、善段手が届かないような場所まで作業をすることが可能です。さすがにこういった場所まできちんと処理してあるクルマは稀でしょう。⑦清掃が終わったら、スプレーでシャシブラックを塗っておきます。草レース用なんで、シャシブラックで十分。⑧完成。ここまでやっておけば、ボディの保ちだって結構良いでしょう。

ロールケージを仮付け よっこいショーイチ



01



02



04



05



03

厄介な作業は
B・S山崎社長にお任せ

ロールケージ組んでから合体ですか？

せっかく高くまで持ち上げられるようになったので、最初はロールケージを組み込んだ状態でボディを載せられないか試すことにしました。①シャシーはこのようにブロックにペイントされていました。フロアをFRPで補強した時、ロールケージの取り付け穴が塞がってしまったので、再度開け直すことにしましょう。②それが終わったらロールケージを仮付けします。仮付けなんでもどりあえずボルトも二本だけで固定しておくことにしましょう。③ポートパワーとレバブロック(いわゆる“ガッチャ”ですね)を使用して、ロールケージの形状を修整します。そのまま下側だけ合わせてしまうと、上の方ですばまってしまうからです。④それでは、ボディを被せてみることにしましょう。⑤と思ったら、ロールケージの広がっている部分が当たってしまってボディが下がります。計ってみたときにはギリギリクリアできると思ったのに。残念！

いよいよボディとシャシがひとつになります！



09



10



11



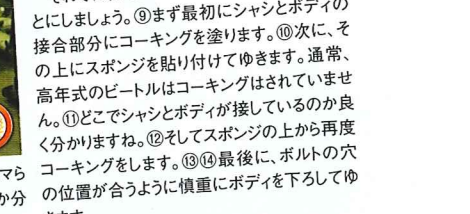
12



13



14



15

ピッタリコン
合いましたなあ

それでは、いよいよシャシにボディを載せることにしましょう。⑨まず最初にシャシとボディの接合部分にコーキングを塗ります。⑩次に、その上にスポンジを貼り付けてゆきます。通常、高年式のビートルはコーキングはされているのだから、⑪どこでシャシとボディが接しているのかよく分かりますね。⑫そしてスポンジの上から再度コーキングをします。⑬⑭最後に、ボルトの穴の位置が合うように慎重にボディを下ろしてゆきます。

⑮はい、できあがり。後はボルトでシャシとボディを固定すれば作業完了です。せっかくなんで、久々にフェンダーを取り付けていただいたところ、ご覧のように一気にクルマらしく見えるようになりました。なんとなく先が見えてきたような感じがしますね。通常のロードカーの場合、内装を取り付けて隠してしまえばどのような作業を行なったのか分からなくなってしまうものです。しかし、このピンビーのような草レース仕様車の場合は、手抜きをすればちゃんと見えてしまうんですね。